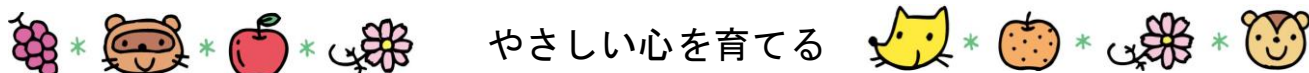


平成 28年 8月 30日

敬愛短大附属幼稚園だより 9月号



やさしい心を育てる

私が小学校に勤めていたころの話です。「先生、校庭で鳥が死んでいました。」と高学年の女の子二人が職員室にやってきました。夏休みのある日、学校に遊びにきていた小学生が見つけたのです。「どうするの?」と聞くと、「うめてあげたいので小さいスコップか何か貸してください」と答えました。「ありがとう、お願いします」と言いながら道具を渡しました。15分くらいして、また2人が職員室に来ました。「先生、ティッシュペーパーをください」と言いました。その理由を聞くと、「鳥を土の上に置いてまた土をかけるのは、かわいそうな気がして・・・」「鳥をつつんでうめたいのです」と答えました。

2人の小学生は、校庭で死んでいる鳥を見つけ、どうするか相談したのだと思います。そのままにすることもできます。しかし、土を掘って埋めようという気持ちになったのです。穴を掘って埋める時になって、また、きっと話し合いをしたのでしょう。二人のやりとりが聞こえてきそうです。そして、ティッシュにつつんで埋めることを思いついたのです。死んでしまった鳥のことを考え、行動ができる優しさをもっている2人に心を動かされました。

では、この子どもたちに優しさを教えたのは誰でしょうか。その前に、優しさは教えることができるのでしょうか。「優しくしなさい」と言葉で伝えても子ども達の心には届かないと思います。「優しく思いやりを持って育てれば、子どもは優しい子に育つ」といわれます。まわりの大人が行動で示すことが大切だと思います。先生方はこの夏の研修で同じ言葉を何度も聞きました。それは「子どもは保育者の言葉や行動から、モデルとして多くのことを学ぶ」です。子どもたちは大人の行動をみて学び、それを身に付けるのです。幼稚園で、子ども達は先生やお友だちから多くのことを学びます。ご家庭でも、子どもはまわりの人の行動を見て学びます。心が痛くなるような事件や事故が続いています。まず、私たち大人の生き方を考えたいと思います。

本年度もこの9月と来年2月に短大の先生方を招いて子育て支援講座を実施します。「子育て」でなく「子育て」とお知らせを変えたのは大きな意味があります。ある専門家は「『子育て支援』から『子育て支援へ』」と述べています。子どもは育つものであり、子どもには本来自分で育つ力があるのです。その自分で自分を育てる力をまわりのいろいろな人が支援することを大切にしたいという考えです。さらに、子育てに関わるまわりの大人も自分が育つことが大切だとも述べられています。

園庭の改修工事が終わりました。これまで、雨が降るとすぐにプールようになっていた園庭が2学期以降は水はけもよくなると思います。さらに、大型遊具やのぼり棒や鉄棒の下にもマットをしき、けがが少なくなるように工夫されています。雨天時、東門からお迎えのとき大きな水たまりになっていたところは透水性のアスファルトで舗装してもらいました。工事関係者の皆様をはじめ多くの方に感謝いたします。これから整備された園庭で元気いっぱい遊びまわる子どもの姿を楽しみにしています。

(山中 護)